

植物多様性センターの「タラノキの花」

奥多摩エリアでタラノキの花が咲いていました。トゲの多い落葉低木で、新芽が山菜として人気です。山地の開けた場所に生えるパイオニア植物なので、山の道沿いでもよく見かけます。しかし、成長がとても早くてまっすぐに伸びる幹の上に花が咲くため、花を観察しようと思うとなかなか大変です。雌雄同株で両性花と雄花があります。両性花は雄性先熟で雄しべが先に熟し、雌しべは雄しべと花弁が落ちてから熟します。



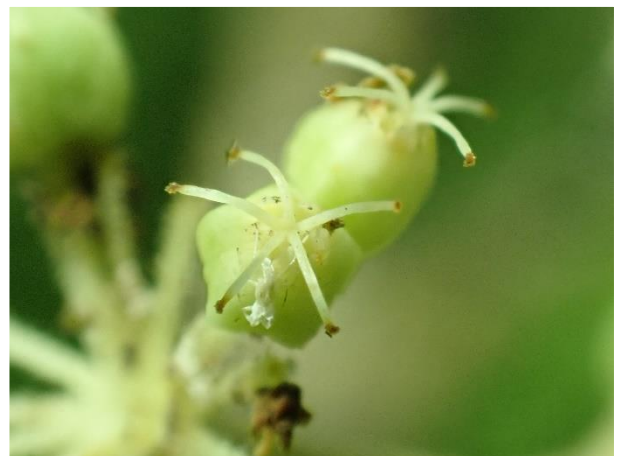
30～50cmの大きな複散形花序に白い小さな花を多数付ける。



葉は50～100cmあり、2回羽状複葉で互生する。



雄花:雄しべと花弁の数は5個。



両性花(雌性期):雌しべしかないので一見花には見えない。